

## 「薬用作物の産地化に向けた説明会」がスタート

2023年8月2日(水)、「薬用作物の産地化に向けた地域説明会および相談会」がAP東京八重洲(中央区)にてハイブリッド開催された。

本イベントは、原料生薬の国内生産拡大に向け、産地化希望者と実需者とのマッチングを目的に薬用作物産地支援協議会(薬産協)が毎年開催している。今年度は、8~12月の期間で産地化説明会・相談会を3回、行政担当者情報交換会を1回開催するシリーズを予定しており、今回はその皮切りとなった。今シリーズでは、薬用作物の中でも国内で使用量・調達量の多い生薬である「カノコソウ(吉草根)」の栽培への取り組みなどについて取り上げる。

当日は、会場で6名、リモートで23名の方々に参加いただいた。今回は、まず生薬国内生産検討班 小柳 裕和 氏よりカノコソウの国内での生産拡大に向けた取組みについて説明があった。

その後、行政機関、研究機関、栽培農家、製薬企業から以下の4名の方々に講演(林先生はリモート)いただいた。

- ・ 農林水産省 農産局 果樹・茶グループ課長補佐 福田智之 先生  
「薬用作物を対象とした補助事業等について」
- ・ 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 薬用植物資源研究センター 北海道研究部リーダー 林 茂樹 先生「カノコソウの栽培について」
- ・ 地域特産物マイスター 古木 益夫 先生「カノコソウの来歴及び栽培の実態」
- ・ 小林製薬株式会社 製造本部 開発・調達統括部 購買部 天然原料調達グループ 吉井 淳 先生「カノコソウ栽培・生産 産地化に向けたポイント」



【相談会の様子】

各講演後、質疑応答を兼ねたディスカッションが行われ、活発な情報交換が交わされた。また、説明会の後に開かれた相談会では、カノコソウの生産を検討している方の相談に対して薬産協のスタッフが熱心に対応していた。

次回は9月5日(火)、今回と同じAP東京八重洲にて、同じくハイブリッド開催される。



【会場の様子】



【リモートでご講演された林先生】



【会場でご登壇の4名の講師】

左から、小柳氏、福田先生、古木先生、吉井先生